

看護・介護者のための 胃瘻管理マニュアル

フェイスル PEG キット編
フェイスルボタン編



目次

1. 「胃瘻」ってなに？	3
2. 「胃瘻」にするメリットってなに？	3
3. 「胃瘻(瘻孔)」の仕組みって？	6
4. 「胃瘻」の手術はこのように行われます	7
5. 胃瘻カテーテルの交換	9
6. 栄養剤等の投与について	11
7. 「胃瘻(瘻孔)」の管理について	15
8. 栄養剤を投与する時の観察が大切です！	16
9. 胃瘻を管理する上での注意事項	16
10. もしこんなトラブルが発生してしまったら	18

はじめに

私たちが日常当たり前のようにおこなっている「口で食べ物を食べる」という行為が、何らかの病気が原因でできなくなってしまうたら私たちはどうしたら良いでしょう…。

食べ物を食べることができなくなったら、当然のことながら体に必要な栄養補給ができなくなってしまいます。

現在、食べ物を食べることができなくなった方に対する一般的な栄養補給の方法として、鼻から胃の中にチューブを挿入して栄養剤を注入する方法(経鼻胃管栄養)と、血管に直接栄養成分を注入する方法(経静脈栄養)があります。

そして3つ目の方法として「胃瘻^{いろう}」による栄養補給法があります。

「胃瘻」とは、お腹に小さな穴をあけて胃の中にチューブ(以下、胃瘻カテーテル)を通して栄養剤を注入する方法です。

もともとはお腹を開腹する外科手術でしたが、最近ではお腹を切らない内視鏡を使った手術が主流になっています。

「胃瘻」は経鼻胃管栄養や経静脈栄養に比べて在宅での管理がしやすく患者さんの生活の質(QOL)を向上させると言われています。

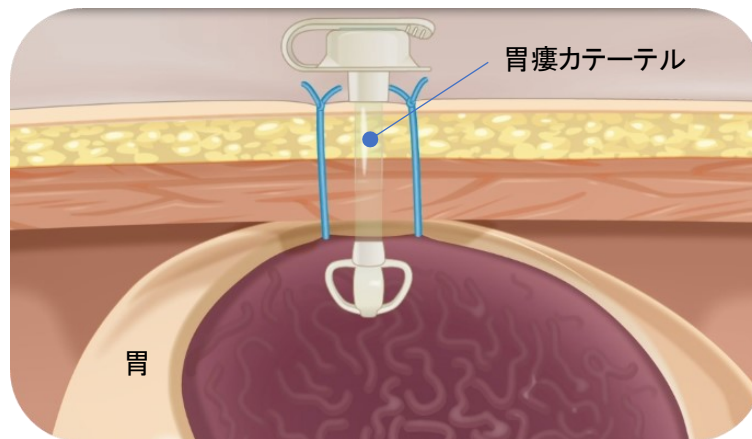
ここでは内視鏡を使った胃瘻の手術と、胃瘻の基本的な管理方法について解説していきます。

1. 「胃瘻」ってなに？

内視鏡で胃の中を見ながらお腹から針を刺して、お腹から胃に通じる小さな穴をあけます。

その穴に胃瘻カテーテルを通して留置し、お腹と胃がくっつくことでできる「孔」を「胃瘻（瘻孔）」といいます。胃瘻の手術に要する時間は10～15分程度で、手術後約3週間程度で瘻孔が完成します。

栄養補給をするときは胃瘻カテーテルを介して栄養剤を胃に注入します。



2. 「胃瘻」にするメリットってなに？

胃瘻には従来の「経鼻胃管栄養」や「経静脈栄養」と比較して以下のような優れた点があります。

①鼻からチューブを入れる「経鼻胃管栄養」はチューブが常にのどを通っているため、患者さんに不快感を与えてしまうと言われています。

これに対して胃瘻はお腹に入れている胃瘻カテーテルが見た目にわかりにくく、鼻からチューブが出ていないので、患者さんに与える不快感を軽減させます。

《経鼻胃管栄養》



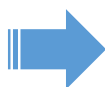
《胃瘻》



②「経鼻胃管栄養」ではチューブが鼻からのどを通して胃に入っているため、「食べ物を食べる練習」がしづらいのですが、胃瘻ではのどにチューブがないのでいつでも口から食べる練習ができます。

《経鼻胃管栄養》

《胃瘻》

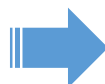


③鼻からチューブを入れた場合、患者さんによっては不快感が強いため自分でチューブを抜いてしまうことがあります。このような患者さんの場合、やむを得ず両手をベッドに抑制しなければならない場合もあります。

これに対して胃瘻は、不快感が少なく胃瘻カテーテルが抜けにくいので患者さんを抑制することはほとんどありません。

《経鼻胃管栄養》

《胃瘻》



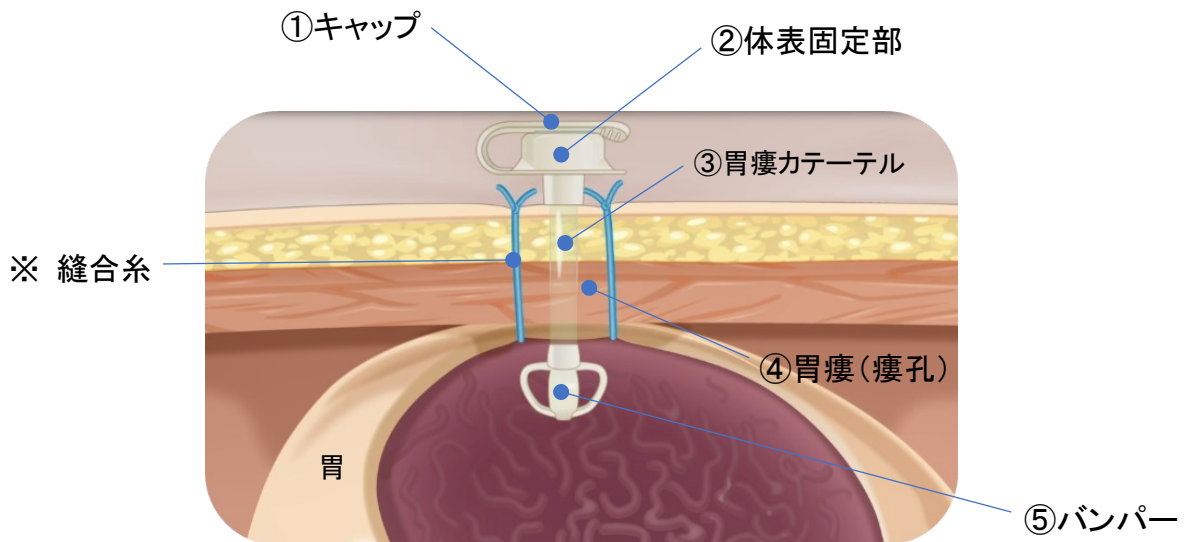
④患者さんは胃瘻カテーテルを保護することなく普通に入浴ができます。

また、衣類を着てしまえば胃瘻カテーテルがお腹に入っていることが見た目にわからないので、気分の良い日は外出もしやすいなど、患者さんの生活の質(QOL)を向上させます。



3. 「胃瘻(瘻孔)」の仕組みって？

※手術時のリスクを低減させることを目的に縫合糸で胃とお腹を縫合固定しますが、瘻孔が完成した後は抜糸します。



①キャップ

胃瘻カテーテルから胃内容物が漏れないようにするための蓋です。

②体表固定部

胃瘻カテーテルが胃内に入り込まないようにするための外部ストッパーです。
ここに付属の「接続チューブ」を繋いで栄養剤等を投与します。

③胃瘻カテーテル

栄養剤等を胃に投与するためのチューブです。

④瘻孔(胃瘻)

ここが胃瘻(瘻孔)と呼ばれる部分です。お腹と胃がくっついていて胃瘻カテーテルを通すための「孔」が開いています。この「孔」はピアスの穴と同じで、胃瘻カテーテルを抜いて放置すると自然に閉じてしまいます。

⑤バンパー

胃瘻カテーテルがお腹の外に抜けないようにするためのストッパーです。

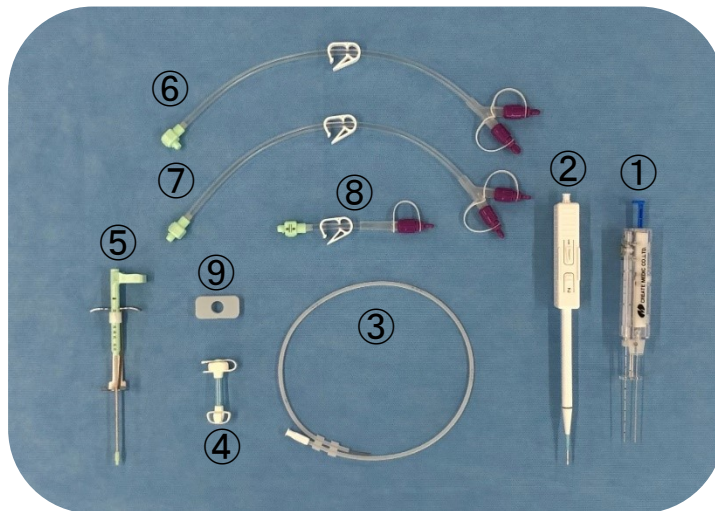
4. 「胃瘻」の手術はこのように行われます

(1) 使用される器具

■フェイスル PEG キット(鮎田式胃壁固定具Ⅱ付)

医療機器承認番号 23100BZX00083000

※この器具で胃瘻の手術が行われます。



①胃壁固定具Ⅱ

お腹と胃を縫合固定するための器具です。

②ユースフレーター(ワンステップダイレーター)

胃瘻カテーテルを胃内に挿入するための穴を開ける器具です。

③ガイドワイヤー

胃瘻カテーテルを挿入するときカテーテルを胃内に導くための器具です。

④カテーテル

栄養剤等を胃内に投与するための器具です。

⑤オブチュレーター

胃瘻カテーテルを挿入するときカテーテルのバンパー部を伸ばして挿入しやすい形状にするための器具です。

⑥～⑧接続チューブ

カテーテルと栄養投与セットに接続して、栄養剤等の投与をするための器具です。

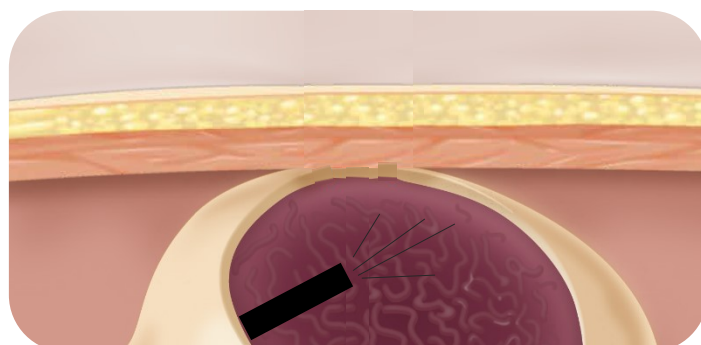
「⑥持続投与タイプ」、「⑦ボラス投与タイプ」、「⑧ボラス投与タイプ(ショート)」の3種類があり、栄養投与の仕方を使い分けます。

⑨スペーサー

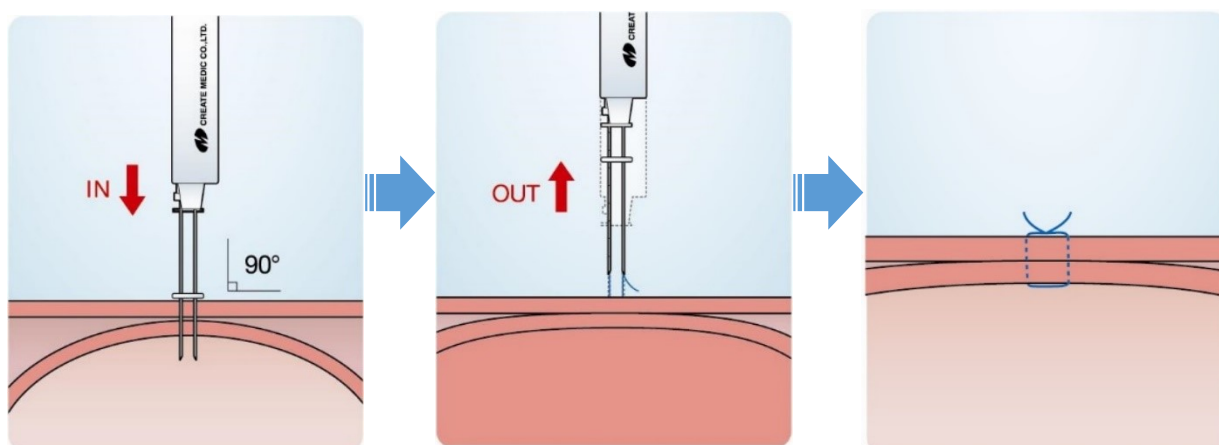
カテーテルを留置した後にお腹とカテーテルの体表固定部の間に入れて隙間をなくすための器具です。

(2)手術はこのように行われます

- ①内視鏡を胃の中に入れて胃内に空気を送り、胃を膨らませることでお腹と胃をくっつけます。



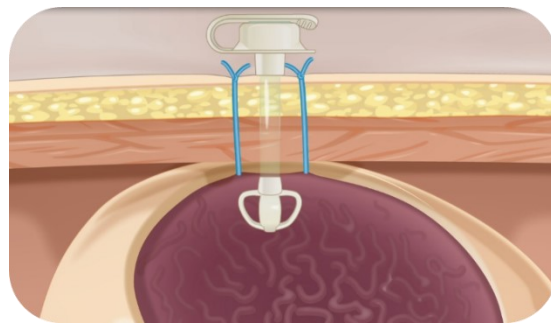
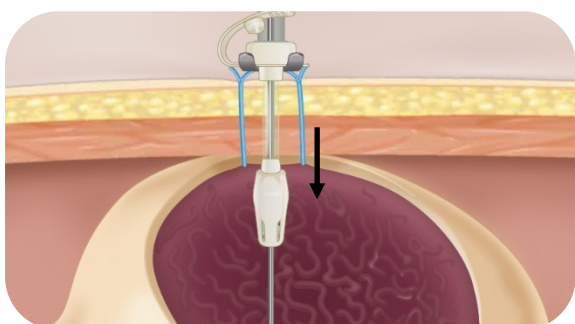
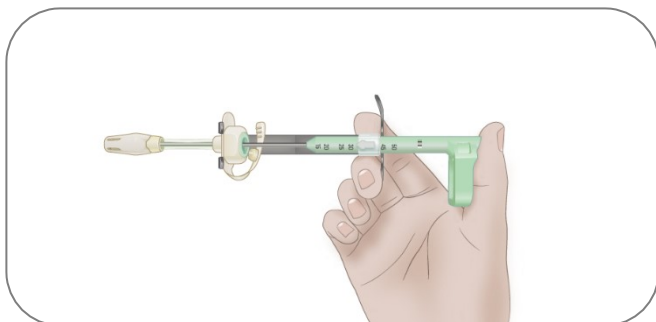
- ②胃瘻をつくる場所に局所麻酔を行ない、「鮎田式胃壁固定具Ⅱ」を使ってお腹と胃の縫合固定(2~4ヶ所)をします。



- ③縫合固定された中央部付近からガイドワイヤーがセットされたユースフレーター(ワンステップダイレーター)を刺してお腹にカテーテルを通す穴を開けます。



④ガイドワイヤーに沿わせて胃瘻カテーテルを胃内に留置し、オブチュレーターとガイドワイヤーを抜去して胃瘻の手術は終了します。



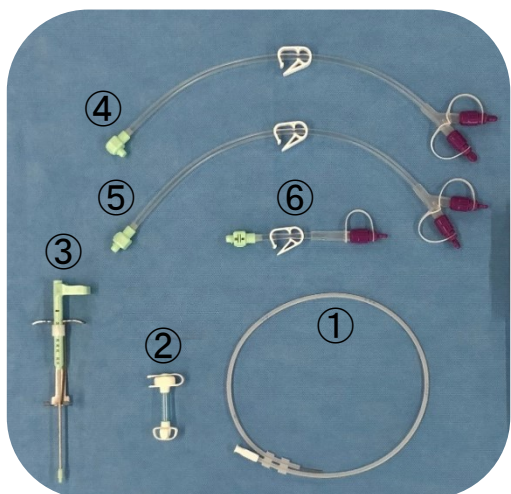
5. 胃瘻カテーテルの交換

ここでは交換用専用のカテーテル「フェイスルボタン」を使ったカテーテルの交換方法について解説します。

(1) 使用される器具

■フェイスルボタン

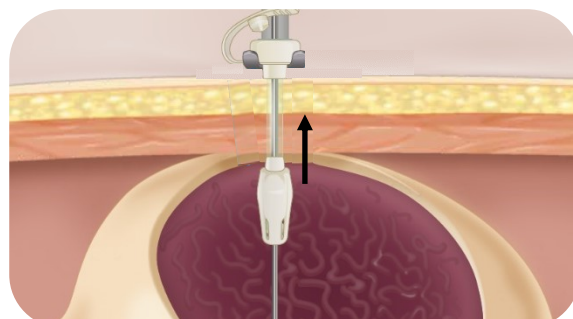
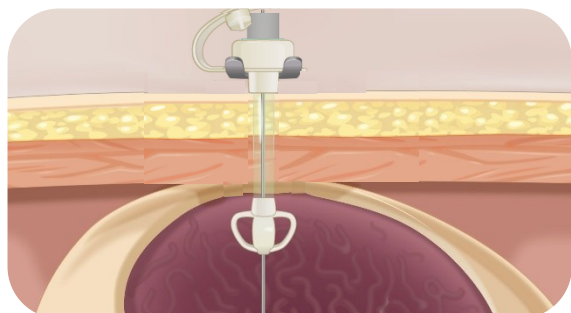
医療機器承認番号 23000BZX00375000



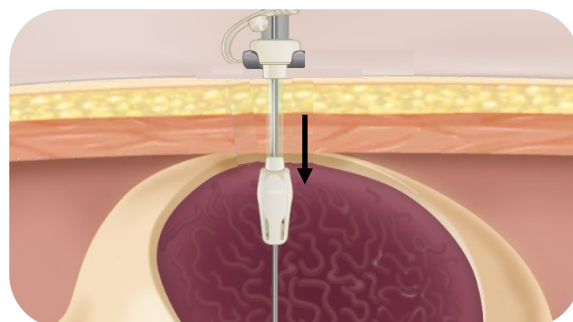
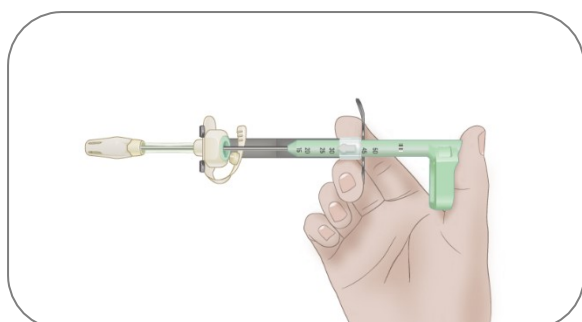
- ①ガイドワイヤー
- ②カテーテル
- ③オブチュレーター
- ④～⑥接続チューブ

(2) 胃瘻カテーテルの交換方法

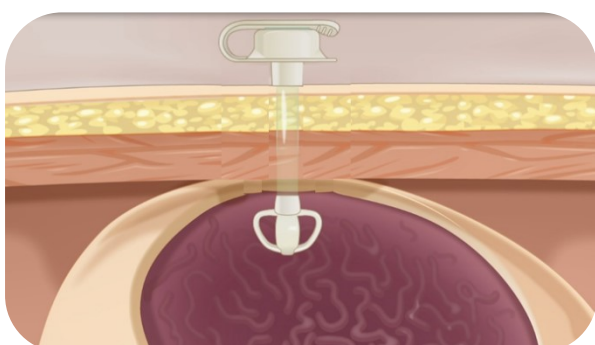
- ①既に留置されている胃瘻カテーテルからオブチュレーターを挿入して、オブチュレーターの内腔からガイドワイヤーを胃内に挿入したあと、バンパーを伸張させてカテーテルを抜去します。



- ②新しいカテーテルにオブチュレーターをセットしバンパーを伸張させて、ガイドワイヤーに沿わせてカテーテルを挿入します。



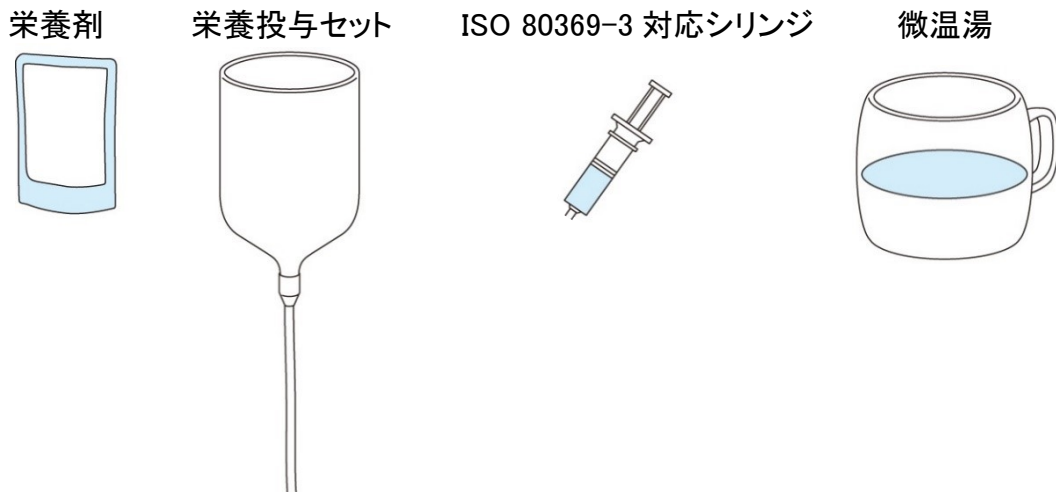
- ③オブチュレーターとガイドワイヤーを抜去し、カテーテルのキャップを閉めてカテーテルの交換が終了します。



6. 栄養剤等の投与について

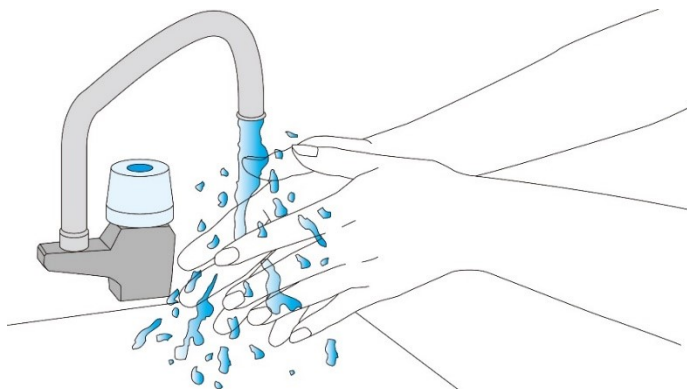
(1) 用意するもの

- ① 栄養剤 ※医師から指示されたものをご使用ください。
- ② 栄養投与セット(栄養剤を入れる容器)
- ③ ISO 80369-3 対応のシリンジ
- ④ 微温湯



(2) 栄養剤を投与する前に

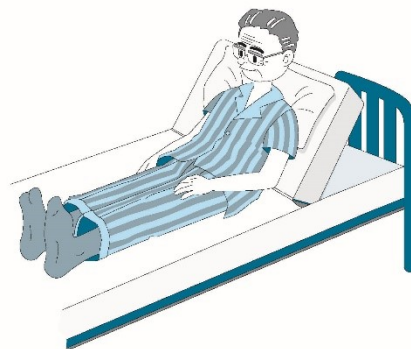
- ① 私たちが食事の前に手を洗うように、栄養剤を投与する前には手を石けんでよく洗ってください。
- ② 栄養剤をお湯に入れて人肌程度に温めておきます。
※栄養剤は種類によって調整の仕方が異なりますので、医師の指示に従って使用してください。



(3) 栄養剤を投与します

① ベッドを上げてなるべく座っている状態に近づけます。

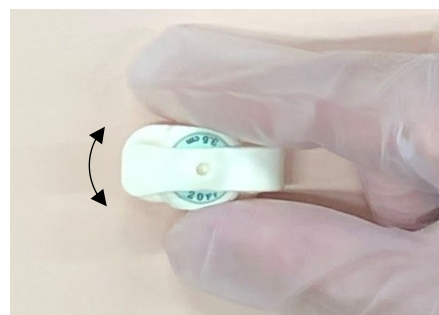
※ 寝たままの状態では栄養剤を投与した場合、栄養剤がのどに逆流して気管に入ってしまうことがあるので、なるべく座った状態で投与してください。



② 胃瘻カテーテルを軽く引っ張り、カテーテルの逸脱・異常がないかを確認します。

また、日常の管理の中でも定期的にカテーテルを回転させて、バンパーが胃壁に埋没するのを防止してください。

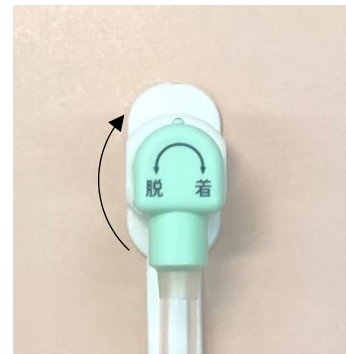
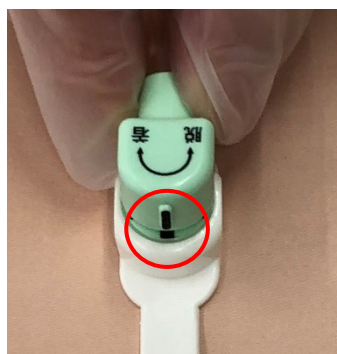
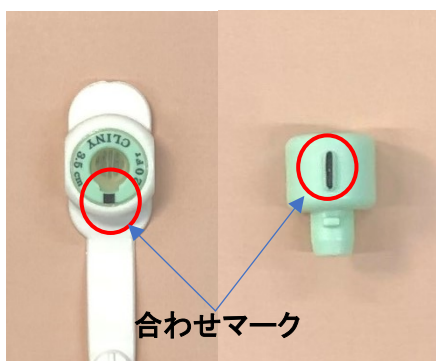
※ 胃瘻カテーテルが回転しない場合など、異常を感じた場合は、すぐに医師へ連絡して医師の指示に従ってください。



③ 接続チューブのクランプが閉まっていることを確認します。



④ 接続チューブのコネクタを持ち、接続チューブのコネクタにある「合わせマーク」と胃瘻カテーテルにある「合わせマーク」を合わせて、接続チューブを胃瘻カテーテルに接続し、時計回りに 180° 回転させます。



- ⑤5～10mL の微温湯が入った ISO 80369-3 対応のシリンジを接続チューブに繋ぎ、接続チューブのクランプを解放させて、勢いよく微温湯を注入することで胃瘻カテーテルが詰まっていないことを確認します。



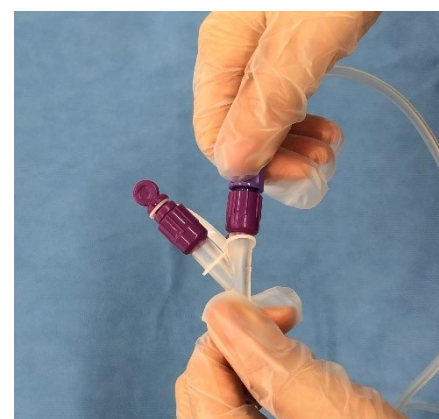
微温湯の注入が終わったら接続チューブのクランプを閉めて、シリンジを外します。

※コネクタとシリンジの先端はネジ式になっています。着脱する際はシリンジを時計回り、または反時計回りに回して行ってください。

※微温湯が注入できない場合は直ぐに医師へ連絡し、医師の指示に従ってください。

- ⑥栄養剤を入れた栄養投与セットを接続チューブに繋げます。

※コネクタはネジ式になっています。栄養投与セットを接続する際は栄養投与セットのコネクタを時計回りに回して行ってください。

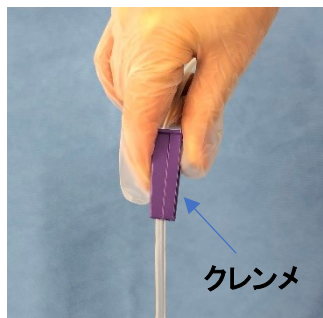


※栄養投与セットを接続チューブに接続する前に、栄養投与セットのチューブ内に栄養剤を満たす場合は、コネクタの先端部に栄養剤が達する前に栄養剤を止めてください。

もしコネクタの先端部に栄養剤が付着した場合は、清潔なガーゼ等で余分な栄養剤を拭き取ってから接続チューブに接続してください。(接続チューブのコネクタが汚れにくくなります)



- ⑦接続チューブのクランプを解放して、クレンメで滴下速度を調節し、栄養剤の投与を開始します。



(4) お薬の投与について

医師からお薬を処方されている場合は、医師からの指示がない限り基本的には**栄養剤の投与が終わった後**にお薬の投与を行ってください。

- ①お薬をお湯でよく溶かします。

※お湯の量等については医師の指示に従ってください。

- ②お湯で溶かしたお薬を ISO 80369-3 対応のシリンジに入れて、シリンジを接続チューブに繋げて、勢いよくお薬を注入します。

※お薬を栄養剤と一緒に注入するとカテーテルの中が詰まる恐れがあるので、医師の指示がない限りは、お薬は栄養剤投与後に行ってください。

(5) 栄養剤・お薬の投与が終わったら

栄養剤やお薬の投与が終わったら**必ず**、最低 10mL の微温湯でフラッシングをしてください。

※フラッシングとは微温湯を勢いよく注入してカテーテルの中に付着した栄養剤等を洗い流すことを言います。

- ①栄養剤等の投与が終わったら接続チューブのクランプを閉めて、栄養投与セット等を外します。

- ②最低 10mL の微温湯を入れた ISO 80369-3 対応のシリンジを接続チューブに繋げ、勢いよく微温湯を注入してカテーテルの中に付着した栄養剤等を洗い流します。

- ③フラッシングが終わったら接続チューブを外し、カテーテルのキャップを閉めて栄養剤等の投与は終了です。

- ④栄養剤等の投与が終わったら30分程度ベッドを上げたままにしておいてください。
※使用した栄養投与セットやシリンジの取り扱いについては医師の指示に従ってください。

7. 「胃瘻(瘻孔)」の管理について

毎日栄養剤を投与していると瘻孔の周囲が汚れてきて、皮膚の炎症等を引き起こす可能性があります。

瘻孔周囲のこまめな清拭と入浴、シャワーなどで瘻孔を清潔に保つことが大切です。

(1) こまめに瘻孔の周囲を清拭することが大切！

- ① ガーゼに微温湯をしみ込ませて瘻孔の周囲を拭きます。
- ② 胃瘻カテーテルの周囲は微温湯をしみ込ませた綿棒を使うと良いでしょう。



(2) 入浴やシャワーで気分転換を！

- ① 入浴やシャワーは体を清潔にするのと同時に、疲れを癒し気分をリフレッシュさせてくれます。定期的に入浴やシャワーをさせてあげることをお勧めします。このとき、瘻孔や胃瘻カテーテルを保護する必要はなく、そのまま入浴やシャワーをしてかまいません。
- ② 入浴やシャワーの後は乾いたタオルで良く拭いてください。

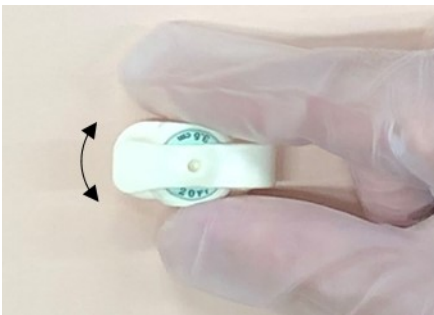


8. 栄養剤を投与する時の観察が大切です！

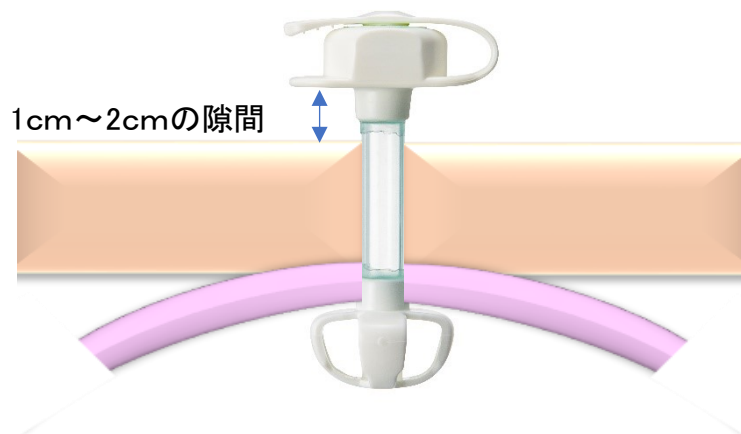
栄養剤を投与する時に患者さんの顔色や瘻孔周囲の皮膚の状態、胃瘻カテーテルの状態などを確認することで、早期に異常を発見することができます。
何か異常があるのでは？と感じた場合はすぐに医師へ連絡して、医師の指示に従ってください。

9. 胃瘻を管理する上での注意事項

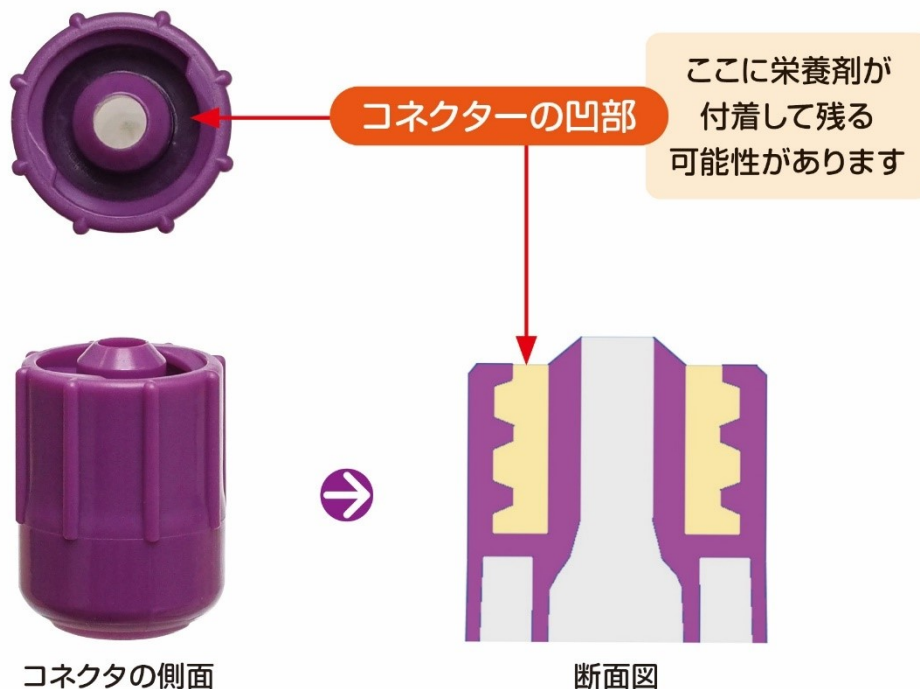
- ①胃瘻カテーテルを軽く引っ張り、カテーテルの逸脱・異常がないかを確認します。
また、日常の管理の中でも定期的にカテーテルを回転させて、バンパーが胃壁に埋没するのを防止してください
※胃瘻カテーテルが回転しない場合など、異常を感じた場合は、すぐに医師へ連絡して医師の指示に従ってください。



- ②カテーテルの体表固定部とお腹に1cm～2cmの隙間があることを毎日確認してください。
体表固定部と皮膚の間に隙間が無いと皮膚のトラブル等に繋がる可能性があります。



③接続チューブのコネクタはその構造上栄養剤等がコネクタの凹部に残ってしまう可能性がありますので、栄養剤等の投与が終了したら直ぐにコネクタを洗浄するようにしてください。



※栄養剤等が乾いてしまうと落ちにくくなってしまいますので、栄養剤等の投与が終わったらすぐに洗浄してください。



10. もしこんなトラブルが発生してしまったら・・・

■次のようなトラブルが発生したら医師へ連絡し、医師の指示に従ってください。

- ①胃瘻カテーテルがお腹から抜けてしまった
- ②栄養剤が入っていない
- ③栄養剤投与中に吐き気や嘔吐の症状がでた
- ④便秘になってしまった
- ⑤下痢になってしまった
- ⑥瘻孔から栄養剤が漏れてくる
- ⑦瘻孔からいつもより多量の液体が出てくる
- ⑧瘻孔周囲の皮膚に異常(赤い、腫れているなど)がみられる
- ⑨瘻孔の痛みを訴えている

※その他いつもとは違う症状が確認されたら直ぐに医師へ連絡してください。

●胃瘻造設の記録

造設した医療機関（病院）	
住 所	
電 話 番 号	
造 設 した 年 月 日	年 月 日
造 設 した 医 師 の 氏 名	
内 視 鏡 医 師 の 氏 名	
メーカー・製品名 :	社製・
造設カテーテルの型 :	(バンパー・バルーン)型 (チューブ・ボタン)型
造設カテーテルのサイズ :	長さ cm 太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年 月 日
備考	

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●胃瘻交換の記録

カテーテル留置日:	年	月	日
交換した医療機関(病院)			
交換した医師の氏名			
メーカー・製品名	社製・		
交換キットの型	(バンパー・バルーン)型	(チューブ・ボタン)型	
交換キットのサイズ	長さ	cm	太さ Fr
次回カテーテル交換日:	年	月	日
備考			

●いざという時、あわてないための連絡先

機関・施設名	担当科 氏名	TEL FAX	備考
			主治医
			訪問医
			訪問看護師
			訪問リハビリ

×E

×E

×E